

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 初めて体けんした大雨特別けい報 」

奈良県 葛城市立忍海小学校 4年 岡田 大和

ぼくは8月12日に大雨特別けいほうが出た熊本県天草市に旅行に行ってきました。その時に見たことや考えたことを書きます。

九州地方北部に線状こう水たいが発生し、ぼくがとまっていた熊本県天草市にも大雨がふりました。奈良県に帰ろうとしていた日の朝ホテルの人から「土砂くずれが発生しているので道が通れません。」と教えてもらいました。そのため、ぼくたち家族は、ホテルにもういっぱいすることになりました。

雨がおさまってから、町に買い物に出でみると、ゆか下しん水の後片付けをしているお店の人には会いました。「お店の食材は大じょうぶなのかな。」と心配になりました。

市役所にお母さんがれんらくしてじょうほうを集めると、ふっきゅう作業を夜中までしてくれるとのことでした。そのおかげで、次の日には道路がふっきゅうし、ぼくたちは帰ってくることができました。

土砂くずれの近くを通った時、茶色のがけが見えて、とてもこわいなと感じました。がけくずれのげん場を見たのは初めてのたいけんでした。

今回の旅行中に九州地方に線じょうこう水たいが発生し、予想以上の大雨がふったことが原いんで土砂くずれが発生したと聞きました。

そこでぼくはお父さんといっしょに線じょうこう水たいについて調べてみました。大雨が列になっておそってくるということでした。そして、線じょうこう水たいが九州地方で発生した原いんは、海面水温が高かったからだということも分かりました。むかしにくらべて地球がだんだん暑くなっていることで海面水温が高くなり、さいがいにつながるような大雨がふり、土砂くずれにつながっていました。ことが分かりました。

夏休み中にインドでも土砂くずれのひがいにあっている人達のニュースを見ました。日本だけではなく世界中でも気候変動のえいきょうが出ていて、みんなで協力していくかないとだめだと思いました。

お母さんがはたらいているほ育園では、どんぐりのなえを育てているそうです。どんぐりの木が二さん化たんそをすって、さんそを出してくれるから、植物を育てているそうです。植物が土砂くずれを防いでくれることも知りました。

最後に、ぼくがふだんの生活の中でできることを考えてみました。

大雨特別けいほうが出る前に、食べ物や飲み物を買いに行こうと思いました。今回の旅行中にも買い物に行きましたが、閉まっているお店も多く、食べ物の種類も少なくなっていました。だから、ふだんから食料を買っておくことが大事だと思いました。

そして、今回の旅行では、安全なホテルにひなんできたので助かりました。だから、ぼくの住んでいる町でもハザードマップをかくにんし、大雨特別けいほうが出る前に、安全な場所にひなんしておくことが大事だと思いました。